

西郷港周辺まちづくりプロジェクトに関するニュースレター Vol.6 をお届けします。このニュースレターでは、現在進行中のプロジェクトに関する取り組みを町民の皆さまへお知らせしています。
今回は、「海見える交流館」の計画内容をご紹介します。あわせて、11月に開催したワークショップの様子や、にぎわい創出に向けておこなった社会実験の取り組みについてもお知らせします。

西郷港周辺まちづくりに関する
ご意見・ご感想をお聞かせください



特集「海見える交流館」どんな施設になる？ 設計の概要を紹介します。

隠岐の島町は、西郷港周辺まちづくりの一環として、「海見える交流館」の整備を進めています。この施設は、交流館周辺の広場と一体的に整備することで、海とまちをつなぎ新たな交流拠点となります。

町は令和7年3月に設計者および運営事業者を決定し、両者と連携しながら設計を進めてきました。あわせて、施設の使い方や広場・周辺道路の整備方針について、地域の皆さまとの意見交換やワークショップを重ねてきました。町内の小・中・高等学校および隠岐養護学校の児童・生徒の皆さんの声や、2階の利用を希望する事業者との協議も行い、誰もが利用しやすい施設を目指して検討を進めています。

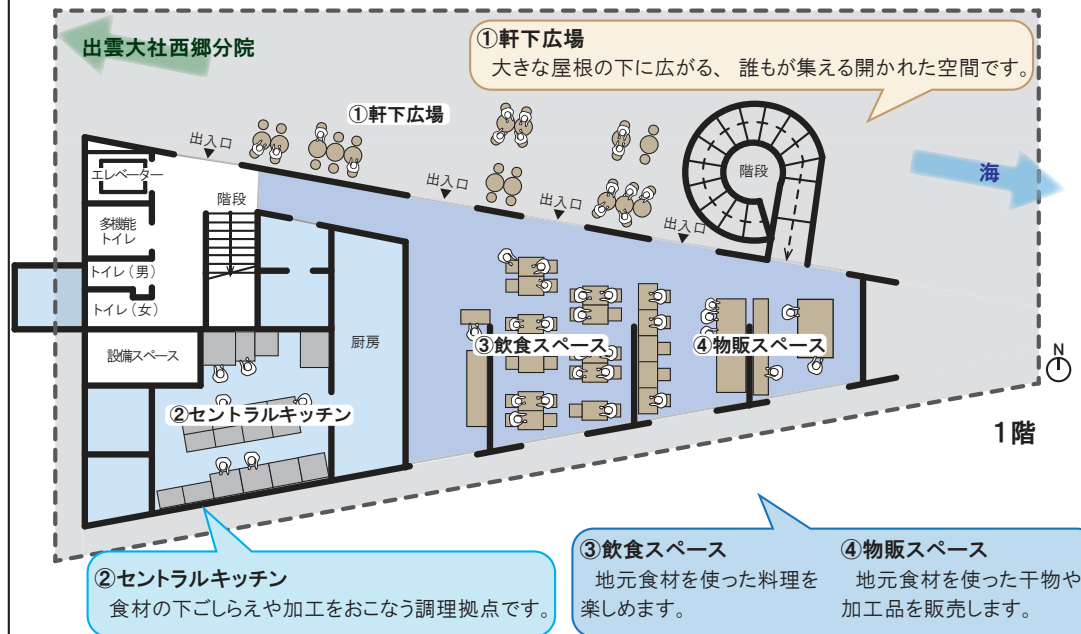
このたび、施設の設計がまとまりましたので、概要をご紹介します。なお建設は令和8年度、オープンは令和9年度を予定しています。

「海見える交流館」は、大きな屋根のかかった軒下広場が特徴です。この空間は、誰でも自由に利用できる場として、くつろぎやイベントなど、さまざまな活用を想定しています。

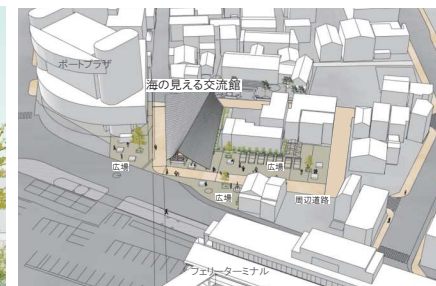
建物1階には、セントラルキッチンと飲食・物販スペースを整備します。セントラルキッチンでは、町内でとれた魚や野菜などの食材を用いて、効率的な食材加工をおこなうことができます。また、飲食スペースでは、店内での食事のほか、軽食のテイクアウトなども可能です。さらに、物販スペースでは、隠岐の味を広く届けるために、町内産の加工品などを販売します。



▲軒下広場から海を見たイメージ図



▲フェリーターミナル側から交流館を見たイメージ図



▲交流館と周辺広場・道路を見たイメージ図

建物2階は、交流や相談、休息や滞在など、さまざまな過ごし方がひとつの空間の中でおこなえるように設計しています。年齢や立場、目的の有無を問わず、多様な人が利用できる場として整備を進めています。

⑤クリエイティブコミュニケーションプレイス（創造的な活動の場）

シェアキッチンや大型モニター、高速Wi-Fi環境などを備え、世代や立場を超えてさまざまな人々が交流・活動を行う場として設計しています。

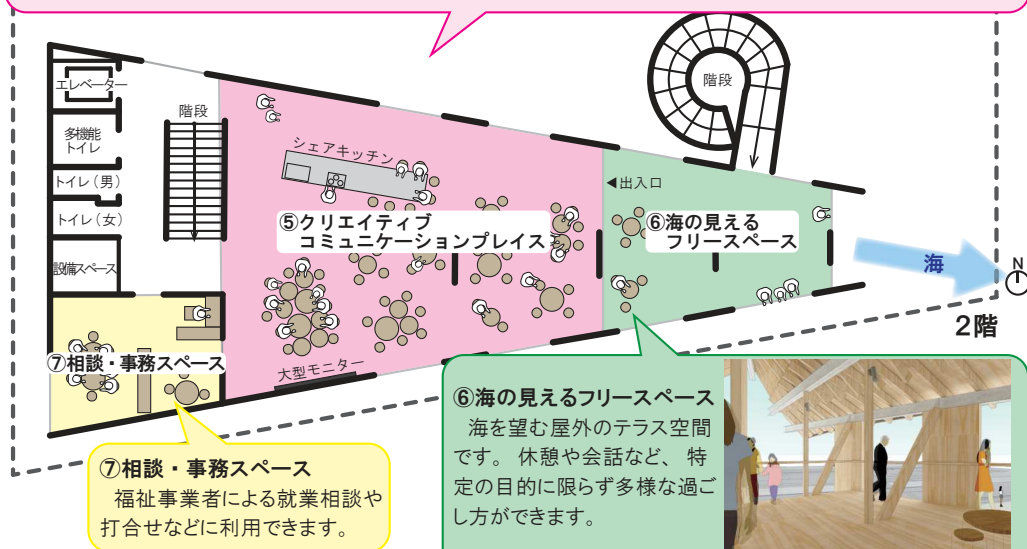
この場所は、イベントやワークショップ、デジタルを使った学びなど、多様な目的で活用できるようになります。



▲交流スペースのイメージ図



▲交流スペースのイメージ図



▲フリースペースのイメージ図

開催報告

みちと広場の色を考えるワークショップを開催しました

開催日時：令和7年11月22日（土）13:30～14:30 / 23日（日）10:00～12:00

会場：うみやまもつとあつまれ（中町目貫の四38）・現地（フィールドワーク）

◆ワークショップ概要

海見える交流館の軒下広場や周辺広場・道路ならびにうみまち通りの舗装仕上げについて、住民の皆さまと一緒に色や素材を考えるワークショップを開催しました。当日は、実際に計画地を歩きながら、舗装材のサンプルも参考に、これからのまちの表情や印象について意見交換をおこないました。グレー系、ベージュ系、赤・茶系の色味を中心に、どのような雰囲気がこのまちにふさわしいか、参加者の皆さんと一緒に考えました。



▲舗装材のサンプル



▲フィールドワークの様子（灘通り）



▲フィールドワークの様子（交流館計画地）



▲フィールドワークの様子（うみまち通り / 国道485号）

◆参加者からの意見

ワークショップの参加者からは、「明るく、歩きたくなるような色が良い」「周辺の景観と調和する落ち着いた雰囲気が合いそう」などのご意見をいただきました。

ワークショップ終了後も住民の皆さまからの意見を収集するため、うみやまもつと広場のほか、西郷小学校、西郷中学校、隠岐高校、隠岐水産高校、隠岐養護学校にアンケート用紙を掲示し、引き続きご意見をうかがいました。

皆さまからいただいたご意見は、今後の舗装デザインの検討に活かしてまいります。



▲意見収集の様子

開催報告

大城山通学路・避難路まちあるきワークショップを開催しました

開催日時：令和7年11月20日（木）15:00～16:30

会場：善立寺（西町大城-14）・現地（フィールドワーク）

◆ワークショップ概要

大城墓地に向かうみちは、通学や災害時の避難にも使われる、まちと大城台地を結ぶ重要なみちです。安全で快適に通行できる環境を目指し、現地でのフィールドワークを含むワークショップを開催しました。当日は、みちの使われ方や街灯のあり方などについて、参加者の皆さまからご意見をいただきました。



▲フィールドワークの様子

◆参加者からの意見

通行のしやすさについて

- 一部区間は車の通行が可能になると便利
- 子どもが安心して通学できるようにしてほしい

明るさ・雰囲気について

- 明るく、開かれた印象のあるみちにしてほしい
- みちの色は落ち着いた色のある、厳かな雰囲気が良い

いただいたご意見を参考に、より安心で親しみの持てるみちとなるよう、今後の整備方針を検討してまいります。

開催報告

西郷港周辺にぎわい創出社会実験を実施しました

開催日時：令和7年11月9日（日）～12月11日（木）

場所：国道485号 西郷港フェリーターミナル前からうみやまもつとあつまれ前まで

うみやま
もつとあつまれ
活動報告



詳細は都市計画課インスタグラムでも公開中です

◆実施期間中の取り組み

11月から12月にかけて実施した社会実験では、フェリーターミナル前の国道485号に仮設の滞留空間を設け、通行や滞在の在り方を検証しました。

期間中は、ベンチやテーブルの設置に加え、オープンカフェや屋台出店、子どもの遊び場の展開など、さまざまな過ごし方を促す仕掛けを試みました。時間帯や天候による人の流れや滞在の様子の変化を観察し、現在は得られた気付きを整理・分析しています。これらの結果は今後の整備に活かしていく予定です。



▲社会実験期間の様子（まちづくり説明）

◆竹灯籠づくりワークショップを開催しました

社会実験の一環として、「竹灯籠づくりワークショップ」を全4回開催しました。参加者が竹に穴をあけて模様を付け、竹灯籠を製作しました。完成した竹灯籠はうみやまもつと広場内に12月25日まで展示され、イルミネーションとともに夜の広場を照らし、竹の隙間からこぼれるあかりが通りに彩を添えました。

ワークショップには子どもから大人まで幅広い世代が参加し、それぞれが工夫を凝らしたデザインに取り組む様子が見られました。竹灯籠の製作や展示を通じて、広場や通りに人が立ち寄り、過ごす場面が生まれ、にぎわいを生み出す空間活用の一事例となりました。



▲ワークショップの様子



▲ワークショップの様子



▲完成した竹灯籠



▲うみやまもつと広場の様子

ご挨拶

本年も、西郷港周辺まちづくりに多くのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。令和7年のおもな取り組みを振り返ります。

- 3月「海見える交流館」設計者と運営事業者が決定
- 5月「第8回地権者の会」を開催
- 6月「まちづくりシンポジウム」を開催 まちづくりの全体像と交流館の計画概要を広く周知
- 7月 高校生企画イベント「うみやまもつと広場華やか大作戦」を開催
- 8月「景観計画策定委員会」を発足
- 9月「海見える交流館と周辺整備についてのワークショップ」を開催
- 11月「西郷港周辺にぎわい創出社会実験」を実施
高校生企画イベント「西郷港周辺まちづくりフェス2025」を開催
「大城山通学路・避難路まちあるきワークショップ」を開催
「歩いて楽しいまちにむけて みちの色と素材を考えるワークショップ」を開催

シンポジウムや各種ワークショップのほか、子どもたちを対象としたまちづくり授業などを通じて、地域の皆さまとの対話を継続してまいりました。引き続き西郷港周辺まちづくりにご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



▲シンポジウムの様子



▲まちづくりフェス2025の様子